

子育て世帯の多様なライフスタイルを実現する都市・交通施策に関する研究

主査 大森 宣暁（東京大学大学院准教授）

少子高齢社会に直面している我が国において、子育て中の親の社会参加を支援し、少子化に歯止めをかけるためにも、妊婦、乳幼児・児童を持つ子育て中の親および子供が、安全・安心・快適に外出活動に参加できる環境を整備し、多様なライフスタイルを実現するための都市・交通施策が求められている。本研究は、乳幼児・児童を持つ子育て中の親が、外出活動を含めた日常生活活動を行う上で直面するバリアの具体的な内容を再整理し、地域社会で多様なライフスタイルを実現するために有効な都市・交通施策を、都市・交通・建築・福祉等幅広い視点から総合的かつ具体的に検討することを目的とする。昨年度までの研究成果を踏まえて、引き続き子育て中の親のバリアと行動実態・意識についての理解を深めるとともに、我が国に有効な具体的施策の提案に向けて、諸外国の少子化対策、子供・子育て支援施策、外出支援施策についてのレビューにも力点を置き、都市・交通・福祉・教育等の多様な行政部局間および民間企業やNPOとの適切な連携・役割分担のあり方等についても検討を行った。

計5回の研究会を開催し、関連文献等のレビューと並行して、諸外国（フィンランド、イタリア、フランス、韓国）の子育て関連施策についてのヒアリング調査の報告、東京都内の商業施設における授乳室の実態と評価、子育てまちづくりに関する大学教育の試みとしての東京大学都市工学科での取り組み、子育てバリアフリー研究についての再考、自治体開発指導等における保育所整備の実態、鉄道内におけるベビーカー利用に対する乗客の意識、等の内容について議論を行った。また、筑波大学で開催された第43回土木計画学研究発表会において、「子育てしやすいまちづくり」セッションを企画し、研究会メンバー以外の参加者を交えて、子育て世帯の多様なライフスタイルを実現する都市・交通施策に関して多様な視点から議論を行った。